



2



3



1

- 1/自然光が降り注ぐ開放的なリビング。天然木のフローリングはショールームで実際に肌触りを確かめて、裸足で歩いた時に心地よかったものを選んだそうです。
- 2/ソファ側から眺めたLDK。以前は独立キッチンでしたが(右奥)、オープンキッチンに変更して空間全体が広々と伸びやかになりました。
- 3/オープンタイプにリノベしたことで閉塞感がなくなり、LDを見渡せるようになった開放的なキッチン。「娘と一緒に料理したり、お友だちと会話を楽しみやすくなったのが嬉しい」と奥様。カウンターに天然石(カレドニア)を使って、インテリア性も高められています。

夫婦の「今とこれから」を見つめて 生まれ変わった、新しいわが家。

[兵庫県宝塚市] T様邸

ライフスタイルと間取りが合わなくなってきた…
家族構成が変わって、そんな風を感じることはありませんか？
今回ご紹介するのは、お子さまが独立されて
ご夫婦おふたりとなられた住まいのリノベーション事例。
住み慣れたわが家でより長く快適に暮らすヒントが満載です。



15年後に思いを巡らせて
リノベーションを決意。



樹々の間から鳥のさえずりが聞こえる、自然豊かな高台の住宅街。その一角にあるグランドメゾンにこだわりのリノベーションをされた住まいがあると伺い、積水ハウスの担当者の案内のもと、T様邸を訪れました。

迎えてくださったのは、やさしい笑顔が印象的な奥様。今回のリノベーションを主体となってリードされました。

「主人も娘もお母さんの好きにすればいいんじゃない、と言ってくれて任せられたんです(笑)」

お部屋の隅々に光るセンスの良さを見れば「ご家族が一任されるのも頷ける話ですが、そもそも、なぜリノベーションをしようと思われたのでしょうか？」

「娘が独立し、夫婦ふたりだけになって、あらためてこれから先の住まい方や暮らし方に思いを巡らせるようになったことが始まりです。入居して約15年ほど経って、築年数と傷み具合がイメージできていたので、今リノベーションをすれば、これから15年間は案外きれいに気持ち良く暮らせると思ったんです。自分たちらしい暮らしを楽しむなら早い方がいい。決断が遅くなれば体力的にも難しくなるし、実行するなら元気がうちがいい。さあ今だ！と行動に移しました」

家事動線より、 プランの魅力を重視。

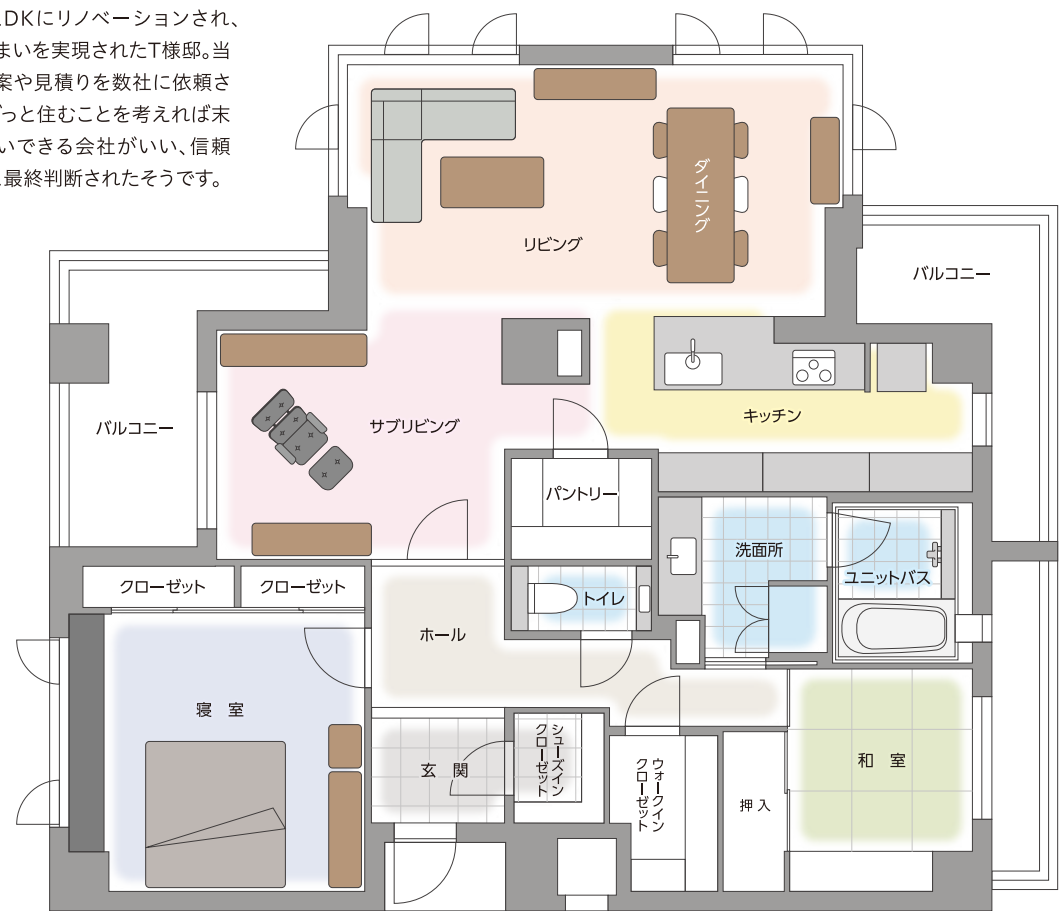
プランについて奥様が提示された条件は3つ。「クローズドタイプのキッチンオープンタイプにしたい」「リビングを広くしたい」「小さくても良いので和室がほしい」という、ごくシンプルなものでした。しかし、積水ハウスが「一番はじめに提案したプランは、あえなく却下されたそうです。」

「当初、ご提案した際に重視したのは家事動線でした。もともとキッチンと洗濯機を置いている洗面室が行き来しやすい間取りだったので、その動線は変えないほうが暮らしやすいだろうと判断しました(担当者)」

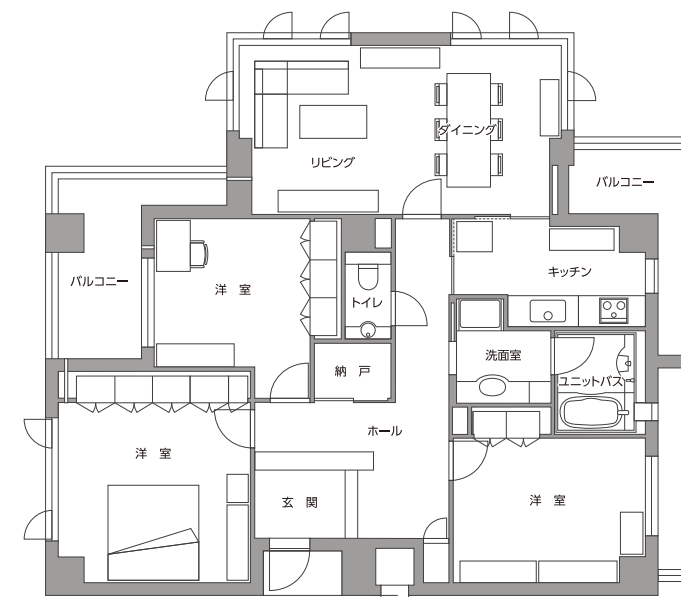
その結果、基本的な間取りは現状と大きく変わらない提案となつてしまい、「ご主人と奥様から言われたのは「それではリノベーションをする意味がない」。もっと空間を広々と使える魅力的なプランに、ということ再度練り直したそうです。」

そうした経緯から誕生したのが、リビング+サブリビングの「ダブルリビング」という個性的なプラン。みんなが集うメインのリビングから、読書や音楽など趣味の時間を一人でゆっくり楽しむサブリビングへと、パブリックゾーンとプライベートゾーン

3LDKから2LDKにリノベーションされ、伸びやかな住まいを実現されたT様邸。当初はプラン提案や見積りを数社に依頼されましたが「ずっと住むことを考えれば永くお付き合いできる会社がいい、信頼関係が大切」と最終判断されたそうです。



After



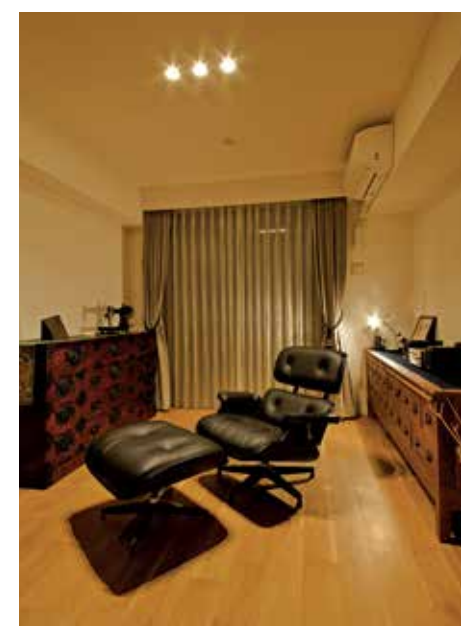
Before

がゆるやかにつながる空間が、T様邸ならではのくつろぎ感を生み出しています。ところで、当初の提案で重視された家事動線については、優先度は低かったのでしょうか。

「それは年齢が関係していると思います。小さなお子さんがいる家庭の場合は、ごはんを作っている間に洗濯機を回して子ども世話もするという、ながら家事がふつうだと思うので、少しでも効率よく動けるほうが助かるでしょう。でも、今の私

の家事のやり方は、料理は料理、洗濯は洗濯という感じなので、動線はほとんど気になりません。でも、実はサブリビングをつくったおかげで、以前よりも洗濯物を干すバルコニーにさっと行けるようになったんですよ。家事動線が思いのほか良くて、結果的にも満足しています」

暮らしのキャリアを重ねて、自分たちのライフスタイルを把握できているからこそ理想の住まいが完成する。まさにリノベーションのお手本だと言えるでしょう。



丁寧にも変化が。心持ちにも変化する。

オープンタイプにしたキッチンからは、広々としたリビング全体を見渡すことができ、料理をつくりながら窓外の景色も楽しめるようになりました。新たに設けた和室は、娘さんのご家族が泊まりに来た際に大活躍だそうです。

さまざまな角度で現在と将来の自分たちにとって最もふさわしい住まいのあり

方を考えて、カタチにした奥様。扉の蝶番や小さな把手一つひとつまで吟味して選んだり、工事中に引越越しをしたり、断捨離をしたりというプロセスも含めて、リノベーションを楽しまれたそうです。

「とても勉強になりましたし、これからは長く使えるいいもの、本当に気に入ったものだけに囲まれて、丁寧に暮らしていこうと思うようになりました」

この前向きな姿勢が、満足のいくリノベーションを実現する秘訣かもしれません。



シューズインクローゼットを設けたことですっきりと仕上げ、奥行きを持たせた玄関ホール。正面のリビング扉は素材にこだわった逸品です (point参照)。



Point「本物志向のリビング扉」

担当のインテリアコーディネーターが、約2300年前からポーランドの湖に沈んでいたオーク材「bog oak(ボグオーク)」を探し出して提案したこだわりのリビング扉。悠久の時を経た自然の風合いが美しく、本物志向のT様ご夫妻にぴったりのインテリアとなっています。



リフォーム・リノベーションのご相談・お問合わせは、本誌P.48をご参照ください。